執行方針

【要約版】



教育長　中山　秀悦

■変化の激しい社会を見据えた学校教育・幼児教育

学校は授業が命。めあての把握、まとめの確認、そして児童生徒自身が自分の言葉で理解したことを表現する、伝える授業を大事にします。ＩＣＴも活用しながら理数教育、英語教育の充実を。ＪＥＴプログラムによるＡＬＴの活用。

信頼関係、礼儀、言語環境。規律正しさの中に時折流れる爽やかな笑いや笑顔。そんな学習環境が全ての基本。

子どもたちが落ち着いて前向きに学ぶ前提は、子ども同士の穏やかで建設的な人間関係。人の痛みの分かる教育を推進し、いじめを起こさせない、いち早く解消する取組を組織的に行います。

脳の活性化は健やかな体から。体系化された体育授業、食育、健康教育を進めます。適時制をもって機能できる健康教育アドバイザーシステム。

多様なニーズに対応した取組の充実。本意でない不登校、登校しぶりへの早期対応、継続対応。学校にアクセスできない児童生徒を出しません。町保健福祉課や育ちの支援会議、地域自立支援協議会と共に、18歳まで一人一人に寄り添う支援を、相談支援事業所や就労支援団体と取り組んでまいります。通級指導の充実を図るとともに、インクルーシブ教育システム・合理的配慮の理念を踏まえた連続性のある「多様な学びの場」の構築を目指してまいります。子ども子育てプロジェクトの一環として、こども園保育教諭派遣事業等、効果的・効率的なマネジメントの強化。

「子ども・子育て支援制度」次期計画を６年度に策定することから、就学前の幼児や小学校児童の保護者への保育、教育ニーズ調査等、事業計画策定を進めます。

■生きがいを支える社会教育

多種多様な学習意欲に応える社会教育。

基盤を支える人づくり、地域づくり、絆づくり。進む少子高齢化、過疎化の中で地域のリーダーは宝。将来のリーダーとなる子どもたちには様々な体験を、さらにそれらの事業を運営する中で、中心となって活躍する指導者人材を育てる。

人に頼られるリーダーをはじめ、町民の心の拠りどころ、人としての財産として、感性豊かで広い心を育む文化・芸術の振興は町づくりの重要な基盤。町民の心の栄養として、幼少年芸術劇場、今金ミュージック・サマースクールの開催、文化協会の支援等、文化芸術活動の推進を計画的に進めてまいります

今金町青年会議が創立50周年、今金町女性団体連絡協議会が創立70周年等、各種記念事業の支援。

北海道内で札幌市に次ぐ２番目の文化庁認定を受けた今金町文化財保存活用地域計画、北海道遺産選定を受けた今金・美利河の金山遺跡、国指定の史跡・ピリカ遺跡等、発展性のある文化財の保護振興に努めます。「住民参加で未来へつなごう　今金の歴史文化」のスローガンの下、学術研究、知の栄養のみならず、「守る・調べる・磨き上げる・育てる」の方針で、ボランティア等、関係人材の育成にも努め、美利河地区を核として観光資源に結びつける文化財保護活動を進めてまいります。美利河２砂金採掘跡に係る未調査区域の調査を実施。

生きがいを感じる源は心身の健康です。体と頭の健康が一番です。そこからゆとりと優しさが生まれます。健やかな心身を育む生涯スポーツの振興を進めます。

子どもから成人・シニアまで、参加しやすいスポーツ活動の実践や食育活動等を通して、健康増進、健康長寿社会の実現を目指します。「第２期今金町スポーツ推進計画」に基づき、スポーツ協会や関係団体と共に、それらの活動を支えるスポーツ環境の充実、企画運営の充実を図ります。

■未来へつなぐ今金の教育

目指すは、◆確かな判断力と◆自らを表出（ｏｕｔｐｕｔ）できる力の育成です。

【読書（ｉｎｐｕｔ）と作文（ｏｕｔｐｕｔ）のまちプロジェクト】をキーとした学校教育グループと社会教育グループの連携施策で、図書振興、自己理解・他者理解を深める体験学習、家庭教育を進めてまいります。

今金町図書振興会議により策定された「第２次今金町図書振興計画および第４次子ども読書

活動推進計画」を受けて、学校図書館運営支援や図書ボランティアと進めるブックスタート、読み聞かせ事業等を充実。
ネット時代の中で重要となる実体験。違いを認め合う国際理解教育や、障がい者理解教育等、大学等との連携による体験学習を通じ、充実させてまいります。

少子化が進む中で、変わらないもの、それは広い心・優しい心を育む家庭教育。親学を充実させます。教職員（学校教育・幼児教育）も親（子育て）から学び、親も社会の中で子育てを学ぶ。その機会を増やし、個と集団（社会）それぞれの教育のあるべき姿を理解し合い、共に子どもの成長を支えていく今金町を目指します。ＰＴＡ活動支援や親学講座、今金っ子わくわくフェスティバルなど諸事業を通して、共に進める家庭教育の機会を提供してまいります。

いまかねエッセイ（作文）コンテストを1年かけて進めてまいります。ＰＩＳＡ型読解力（Ｒｅａｄｉｎｇ Ｌｉｔｅｒａｃｙ）、学校教育での「書く活動」を重視し、読書と作文のまち・プロジェクトチームが選定したテーマに沿って、児童生徒、町民からエッセイ（作文）を募集、審査し、レベルの向上を目指します。語彙力・読解力・表現力を高め、それぞれの作品制作の成就感、達成感、芸術性を人間力の向上に結びつける取組をさらに高め、継続してまいります。

全国的にも減少していく児童生徒数の現状を見据えた、スポーツや文化の経験を保障できる部活動改革（地域移行）については、部活動の現状と課題を整理し、部活動を含めた今金町全体の「芸術・スポーツ環境の問題」として、引き続き協議を進めてまいります。

■教育環境の充実

教育行政の基本理念である「今金町の子どもたちは今金町民の手で育む」の理念の下、教育に関わる連携は、「全ては子どもたち、町民のために」という共通意識の下で進めていかなければなりません。
その基盤となる家庭・地域との連携・協働を、学校、諸団体、官公署、町内会・自治会から構成する学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等と共有して進めていくよう、町部局とともに開かれた教育施策として進めてまいります。

子どもたちの将来に繋がる一貫した教育理念、年代に応じた教育方法を、こども園・小学校・中学校、学童保育所、発達支援センター等、各教育機関とともに共有しながら、今金の教育の姿として。

教職員、関係機関職員の活力ある姿は、児童生徒、町民の元気に結びつきます。校務支援システムや機械警備等の活用による、仕事の効率化や働きがいに結びつく働き方改革を進めてまいります。

「今金中学校改築事業」については、校舎は令和5年4月供用開始で教育活動が進められております。旧校舎の解体工事、正面玄関前など一部の外構工事を終え、残りの外構工事という状況で計画通り進んできている状況ですが、財政状況が厳しいとのことから、グラウンド整備については既存のグラウンドを最小限の整備とし、建設時期を延期することとなりました。
また、「今金町学校給食センター改築事業」では実施設計業務を終え、令和6年度は補助金の要望に関する事務を進め、令和7年度着工、令和8年度供用開始へ向け、進めてまいります。

今後においても、財政状況を念頭に、諸施設・設備の整備を計画的に、変化していく状況も見据えながら進めてまいります。

以上、令和6年度の教育行政推進の基本方針をグランドデザインと共にお示しいたしました。みな縁あって今金町に関わってきた町民の方々を、教育行政として「誰一人不幸にしない」。
人としてのＲｅｓｐｅｃｔのある町、優しい今金町の教育を進めてまいります。
今後とも町民の皆様、町議会議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、教育行政執行方針といたします。

